

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念、事業所の理念を掲げ、「我が家」であることを大切に、地域の一員として暮らせるよう支援している。家族、近隣住民、ボランティアと日常生活、行事などで関わる機会を作っている。	多くの福祉事業を展開する株式会社を母体とし五泉の地域で14年目を迎えている。本部が掲げる「地域の中で共に暮らす」を理念として掲示し、それらを具体的にケアの中に生かせるよう事業所の理念や各ユニットでの目標を表示し、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの美容室の利用、スーパー、飲食店の利用等、地域資源の利用、交流を図っている。ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	管理者が代わり数ヶ月を経過した。利用者の生活の継続と共に、地域の方々との交流を広げたいと、新たな試みを広げていけるよう、馴染みの地域のお店などの協力を得て、実践に向けての取り組みを始めようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学校、高等学校からボランティアや職場体験を受け入れ、実施し文化祭にもお客様の作品を展示してもらっている。ボランティアセンターとも協力し、新たなボランティアの発掘やお客様が古切手収集のボランティアに参加したり地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、町内会長や民生委員を含むメンバーで開催している。ホームの活動、取り組み状況評価結果を報告し意見を頂戴している。意見を元に会議等で検討しサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、最近の運営推進会議では、災害時の避難訓練での課題である「2階入居者の夜間時避難誘導」についてを参加者からの質問、指摘もあり、今後も実践の報告と共に、具体的な内容の検討が、サービス向上につながるよう継続していきたいと管理者は考えている。	会議は開催されているが、現在は、限られた参加メンバーの中であり、参加者が少ない現状である。今後は、利用者、家族、地域の方々、同業者等へ、広く参加を呼びかけを行うと共に、会議での検討内容の記録整備を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターの担当者とは、会議やその他日常的に情報交換を行っている。困難事例等の相談にも応じて頂いている。	運営推進会議では、事業所の現状を伝え意見をいただくなど、協力関係が継続している。新たな管理者は、様々な課題も見えてきたところであり、今後も相談や情報等を得ることで、連携を深めたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束抑止委員会にリーダー・管理者が参加しユニット会議や全体会議等で伝達している。向精神薬について随時検討し、主治医や看護師、薬局へ相談、報告をしている。ご家族にも理解を得ている。	身体拘束をしないケアに関しては、法人全体で取り組む研修が実施されており、マニュアル・フローチャートの整備がなされている。職員は研修に参加し、学びをケアに取り込もうとしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、伝達講習を行っている。入浴時や日々のケアでも注意して全身観察を行っている。施錠しない等、安全・安楽な介助方法を検討することで虐待防止に努めている。	法人全体での研修受講や伝達研修で、「声掛け」についてのユニットでの話し合いが行われ、「威圧的」「命令口調」などがみられた場合は、リーダー・管理者共にその場で注意し、声をかけたり、相談に応じる関係に努めている。	現在行われている、話し合いや検討が日々の生活を支援していく基本となる大切なケアである。今後は、身体拘束禁止・虐待防止についての伝達研修の参加者記録、研修やユニット会議、職員会議内容の記録徹底を行い、いつでも誰でも職員が確認・共有できる体制づくりを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を随時検討し、研修参加もを行っている。成年後見制度の提案や市への相談など、情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には文書で提示し、家族会や面会時にお話しし、理解を得ている。質問、疑問には随時、回答している。また、意見箱を設置し意見を頂き参考にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、家族会、運営推進会議で意見を表せる場を設けている。面会時など意見をお聞きし、些細な意見や要望も取り入れるよう努めている。	事業所の意見箱等には意見が入らないとの現状であるが、何気ない利用者・家族との会話から、意見や要望を引き出せるように、または新年度からの事業に生かせるよう、なんでも話せる雰囲気作りや信頼関係を築けるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議全体会議で意見交換はできている。現場で積極的な企画や提案がしやすいよう雰囲気作りをしている。管理者やリーダーとの面談を行う等機会を設けている。	ユニット会議や職員会議で出た意見を管理者は大切にしたいと考えている。法人本部の担当職員が参加する会議担当を持つこともある。一人でも多くの職員が会議に参加できるように、勤務時間を30分移動する職員の意見や提案が生かされ実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理や定期的な面接により、やりがいや向上心をもって働けるよう努めている。就業状況や資格取得等、個々の希望が叶えられるよう職場環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修の機会はある。社内で全社員参加の研修等は日程を調整し、より多くの職員が参加できるようにしている。事業所内では研修以外に定期情報誌やブログ作成等全員が目を通し確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他事業所とは管理者、ユニットリーダーを中心に定期的な交流を行っている。法人内、五泉市内の他事業所と交換研修を行い、お互いの良い点を学ぶ機会を作っている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学に来て頂き、不安の解消に努めている。その際、本人やご家族から要望をお聞きし、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接でご家族の要望や不安をお聞きし良好な関係作りに努めている。面会時にも状態の報告を交えて話し合っている。入居すぐの期間では様々な不安や疑問がある為、話をする時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な話し合いの時間を設け、当グループホームでの支援や他サービスについての説明も行い、希望を聞いている。サービス時の本人の言動から気持ちを探り、支援の方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や趣味など、本人が今まで行ってきた事や得意な事、本人の持っている能力が十分活かせるよう、支援している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の意向をお聞きし、一時帰宅や外出・外泊等、入居者がご家族と一緒に過ごせる時間を作っている。法事等も希望があれば参加している。	家族には、日々の様子を毎月事業所からのお便りと共に伝えている。受診は基本的にはご家族と共に行われているが、受診必要時に利用者の様子を文書記載したものを家族に説明し渡している。また、必要時において職員が同行し、利用者の日常の様子等の情報を共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望に合わせて定期的に馴染みの友人と外で会える時間を作っている。本人にとって大切な方といつでも話ができるよう、電話を繋いだり関係が途切れない支援に努めている。	利用者本人にとって、居心地が良い生活を送るにはどうすることが良いのかについて、家族、職員が助け合っている。近隣の美容院等の何気ない支援が、本人の安心や家族からの信頼につながることもあり、継続して取り組んでいきたいと話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声がかかけ合えるようソファの配置を考慮したり、職員が間に入り、話の橋渡しをする等、関わり合いが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族から電話や面会があり、交流がある入居者もいる。退居してもいつでも来所できるよう声掛けや、雰囲気作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を参考にし、日々の生活の中での言動・訴え・希望・要望等を聞き、職員全員で情報共有し意向を汲み取る努力をしている。	入所の折、家族よりお聞きした今までの生活を大切に、希望や要望を確認し、入所1ヶ月は暫定プランを作成している。職員全員で利用者の情報を共有し、その後に期間を定めて見直しを行っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、本人や家族に情報収集を行い、これまでの生活と変わらないように努めている。	事業所では計画作成者も異動したばかりであり、現在、情報の収集と記入様式等の整理をしているところである。五泉地域からの利用者が多いので、できるだけ、ご本人の好きな場所やカラオケ、Uチューブなど見たい等、今までの生活や想い大切にしながら支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で職員と1対1で関わる時間を作り、観察を行い職員間で情報共有している。できる能力を把握し、個々が活躍できる場を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、6ヶ月毎に担当職員がモニタリング評価、再アセスメントを行っている。面会時に意向を聞いたり、ケアカンファレンスやユニット会議で意見を出し合っ てケアプランを作成している。	現在は担当職員と計画作成担当者が中心となつて、ユニット会議を通してモニタリングを繰り返し介護計画を作成している。本人と家族の参加が難しい場合は、職員全体の気づきなどをケアプランに反映させている。2月以降は本人や家族の参加を得てモニタリングを実施する予定にしている。	事業所内のユニットごとに書式が異なっているため、今後は管理者と計画作成担当者が検討しながら書式を整えることで、本人や家族の意向を組み込んだ介護計画を作成されることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者とできるだけ関わりを多く持ち、生活記録・業務日誌等に残し、職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の付き添い介助や、個別での外出支援をしている。希望者にはアロママッサージサービスを利用するなど、ニーズに対応したサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関は在宅時の主治医を継続している。近所のスーパーや美容室、床屋を利用。シルバー人材や、ボランティアの協力を得ながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医への受診を継続している為、医師や看護師との信頼関係は築けている。医師によっては往診もお願いしている。	複数の利用者が在宅時のかかりつけ医受診が継続されており、受診時に通いなれた店に寄ったりして外出の楽しみを支援している。また往診を受けている利用者もおられ、医師や看護師とも信頼関係が築かれている状況が窺える。協力医に受診している利用者も、家族が対応できない場合は職員が同行し受診できるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師はいないが、社内看護師が週1回訪問している。電話での相談や指示を受けている。主治医へ状態報告や相談を行い、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療関係者やご家族との情報交換を蜜に行い、出来るだけ早期に退院ができるよう努めている。退院後も安全安楽に生活できるようソーシャルワーカー等と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期への希望を聞き確認している。状態変化があった時など、話し合う機会を再度設けたり、事業所の対応についても説明している。主治医へ相談、助言をもらっている。	事業所では重度化した場合のマニュアルも整備されており職員全体で共有に努めている。入居の時点で利用者に終末期の話ができない場合もあり、その後の状態の変化に応じて、その都度主治医や関係者がチームとして家族の意向に沿った対応をするよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時に緊急時の対応や勉強会、マニュアル確認を行っている。防災訓練時には消防署よりAED、救命講習を受けている。	事業所では急変や事故発生時のフローチャートもフロアにも掲示されており、職員全員が消防署の協力の下、AED講習や救命救急講習を受講し、いざという時のための実践力を身に付けることに努めている。	講習会や伝達研修を行っているが研修などの記録が本部保管ということで事業所で控え等が残っていない状況が窺える。今後はマニュアルを整備するなどし学んだことを何時でもだれでもが見れるようにしたり対応できるように改善されることが望まれる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階昼夜想定避難訓練を行っている。都度、マニュアルの見直しを実施。入居者の状態に合わせて居室変更も行っている。町内会の災害活動の集まりに参加し協力も得ている。	事業所では災害対策マニュアルがあり備蓄も持ち出しやすい場所に保管されており保存期限もきちんと管理されている。年2回の昼夜想定避難訓練には地域の方の参加協力もいただいている。運営推進会議の中で課題となっていたが、マニュアルの見直しを行うとともに職員間で共有を図っている。今後事業所は事業所をもっと知ってもらい活動を行い、地域のより多くの人の協力が得られるようにして行こうと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の状態や性格等を理解し、その人に合った声のトーンや言葉を選択し声かけを行っている。ユニット会議等でプライバシーを損ねない声かけの話し合いもしている。	毎月1回はユニット会議でプライバシー保護の話し合いをしている。介護する側ではなく利用者一人一人、受ける側の気持ちになり言葉かけや対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での問いかけや選択できる機会を作り、自己決定できる場面を設けている。混乱しないように二者択一など、意思表示しやすいよう働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節を感じられるように普段の会話やチラシ等から買い物、外出、散歩等の予定を立てて支援している。事業所内で出来る活動の幅を増やし、希望に添える工夫に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、整容の声かけや介助を行っている。化粧水やクリーム等、希望に合わせて用意している。着たい服を外出時や入浴時に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に楽しみを持ってもらえるよう季節に合わせた食材を提供している。苦手なメニュー時は好みのものを提供している。準備や後片付け等、入居者と一緒に行っている。	事業所のすぐ近くには大型スーパーなどもあり利用者と買い物に出かけ食事作りの演出を楽しんでもらっている。また、食事場面での一人ひとりの好みをを確認し献立を変更するなど、柔軟な対応を心掛けている。事業所のリビングは広くゆったりとしており、動きやすく準備や後片付も利用者と一緒に行うことが可能となっており、共に楽しむための支援に努めていることが窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる場所や食器等も検討し、食べやすい環境、状態を作っている。毎食の食事量、水分量の確認を行い、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態にあった口腔ケアを毎食後実施している。拒否があれば無理せず、時間を置いてから声かけするなど対応している。夜間は義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。できる限り、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	排泄に関してはオムツ使用の利用者は居られず、ほぼ自立されているとのことであるが、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、見守りやさりげない言葉かけでトイレ誘導を心掛け排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分補給を促し、食物繊維を多く含む食材やヨーグルト等を提供している。なるべく下剤に頼らないよう、運動する機会も設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数は週2～3回程度。時間帯も入居者の希望に沿っている。在宅生活の延長を活かし、好みの物品で気持ちよく入浴できるよう支援している。拒否がある場合は、無理強いせず時間をずらしたり、翌日にするなどの対応をしている。	入浴は週3回くらいを目安に、時間帯も利用者の希望を聞き入れている。シャンプー等入浴用品も個人の好みのもを使用してもらい、入浴を楽しんでもらっている。利用者はほぼ自力で入浴できているので、見守りと一部介助の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のタイミングで昼寝、就寝されている。不眠時は温かい飲み物を提供し、ゆっくり話を聞く等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は職員間で情報共有し、会議等で内服検討をしている。個人ファイルに薬剤情報が入っており、副作用の確認も行っている。内服変更時は必ず申し送りをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、食事作り、食器拭き、野菜作り、花植えや水やり等、楽しみ事を継続できるよう支援している。冬季はボランティアの慰問等、気分転換が出来る支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人と定期的に外出できるようにしている。職員が外出計画を立案し、普段行けないような場所へ外出支援している。天気がいい日は外でお茶のみをしている。	日常的な外出が可能な利用者は一部の人に限定されているが、季節ごとのイベント(花見など)には数人で出かけたりしている。また、今後も気候が良くなれば、日々の生活の中に近所を散歩したり、庭先に出たりするように外出を楽しみとしてもらえるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、本人財布で小遣いを管理し、買い物行えるよう支援している。買い物時、支払いが出来る方にはしていただき、見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や友人、大切な方々に電話を繋いでいる。電話や手紙のやり取りができない入居者には職員がメール等で代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消防署の点検、危険箇所チェックを定期的に行い、安全面の確保に努めている。フロアにはその時々写真の掲示、装飾品等で季節を感じてもらえる配慮をしている。状況に応じ、家具の配置転換を行い、居心地良く過ごせるように支援している。	事業所内の居間や食堂、浴室などは生活しやすい広さでゆったりとしている。壁面には季節の飾りがあり、利用者が書いた書道や短冊などが飾られており、家庭的な雰囲気が感じられる。広い窓からは山々が見え季節が感じられるものとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けの椅子を設置し、ソファやパーテーション等を利用する工夫をしている。簡易畳を設置する等、思い思いに過ごせる場所を作っている。必要箇所には手すりが付いており、バリアフリーになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、馴染みの家具、布団、コタツ、三面鏡等を持ち込んで頂いている。家族の写真や装飾品、茶碗や湯のみなど使い慣れた物を使用している。	居室内は程よい広さで窓もあり明るく、クローゼットが造り付けてあり、洗面台、ベッド脇にサイドテーブルなどが備え付けられている。自宅で愛用されていたタンスをもちこんでいる利用者也居られ、住み心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等、場所が分かるように張り紙をしている。居室入り口には名前を張り、暖簾等が設置してある。個々の状態に合わせた声掛けや対応についてユニット会議で検討している。		